

令和4年度 学校評価書（学校経営の方針と重点から）

瑞浪市立瑞浪北中学校

(1) 重点1 授業と家庭学習の両面から強化を図り、主体的に学習に取り組む生徒を育成する
前例踏襲の授業を払拭し、一人一人のつまずきや困り感に対する具体的な支援や手立てをもった授業を実践する。効果的な家庭学習の仕方について指導し、「主体的学習サイクル」の一層の充実を図る。

具体目標	評価	自己評価と学校説明	改善策	学校関係者評価委員会から	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の観点を大切にしたい、授業のユニバーサルデザイン化。 ・校内研、学年研での、個別最適化の手立てや支援の有効性に絞った提案や検証。 ・「主体的学習サイクル」の充実を図る、研究推進委員会と学習指導部の連携。 ・家庭学習の充実に向けた指導の方向性と内容の明確化。 ・SPT（授業の振り返りと家庭学習の立案）をその主たる内容とする帰りの会の充実。 ・「家庭学習の実態把握と指導材料」を目的とし、家庭学習状況の把握に利用する学習計画ノート及び自主学習ノートの指導。 	B	<p>○「『分かった』『できた』と実感できる授業づくり（UD化）に努めた」について、肯定的評価が100%であった。生徒の困り感を把握し支援をすることの大切さが、職員の意識の中に定着し始めていると考える。また、「学校の授業がどの程度分かるか」という問いに対し、約9割の生徒が肯定的に答えていることから、今年度の取組が成果を上げていると考える。</p> <p>○生徒の主体的な学習を支援するため、学習部を中心に、「質問」を推進する取組が始まっている。主体的な学習を後押しするものとして、また、個に寄り添う指導の場として、今後も積極的に進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●計画ノートへの記入を通して学習の見通しをもたせることは、生徒の家庭学習の意識向上に一定の成果があった。一方で、計画そのものができない生徒や、計画そのものが形骸化している生徒への指導が難しいといった声も上がっている。効果的な指導について、学習部を中心に工夫・改善をしていく。 ●「分かる授業」のための工夫と改善をさらに進める。「学習は好きか」という問いに対して、生徒の肯定的評価は45%と、低い状況である。「分からない」と感じる要因を正しくつかみ、個別最適な学習を進めるとともに、生徒自身が主体的に学ぶ活動や場面の工夫を、さらに進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、生徒達が課題に集中して取り組み、授業時間を有効に生かしている姿が見られよかった。また、先生も楽しい雰囲気を作り出し、授業に活気をもたらして好感がもてた。学習の成果については、数値的な分析も試みるとよいと思う。 ・生徒の学ぶ姿勢に落ち着きがあり、集中した姿がありました。さらに、生徒同士がお互いに高めあう場面が増えてくるとよいと思う。 ・わが子が、最近では特に学校から帰ってきてから自主的に学習をしている様子を見るようになりました。前回の二者懇談では、担任の先生からも「他の子よりワークが進んでいますよ」とほめていただけたので、とてもうれしく思います。以前は夜に、期日があるのか、慌ててやっていたので、変化がすごく感じられます。 	B
<p><学校関係者評価を受けての学校の改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科の本質的な魅力を体感させ、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、学びを支える学習集団の育成し、自ら学ぼうとする学習姿勢の定着を図る。 ・ユニバーサルデザイン化の授業を心がけ、要支援生徒に意図的な配慮をする。 ・生徒の学力定着の度合いを調査等で数値化し、客観的なデータにより指導・支援の方向を決め、実施する。 					

重点2 感染予防や環境づくりに、主体性を発揮する生徒を育成する

感染予防においては、教師主導で取り組んだとしても、その意義や重要性を理解して進んで実践できる生徒を育成する。環境づくりにおいては、生徒たちが自分たちで課題をみつけ、自分で考え判断して改善できる生徒を育成する。

具体目標	評価	自己評価と学校説明	改善策	学校関係者評価委員会から	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防がマンネリ化しないように、生徒たちの感染予防意識を刺激するとともに、専門委員会の活動を工夫して感染予防に取り組ませる。 ・「美しさ」を追求する生徒たちの主体的な姿をタイムリーに評価し、先輩から後輩に主体性が継承されるように指導する。 ・環境委員会が中心となって、スーパーエコスクールとしての機能を活用し、環境をコントロールする。 	A	<p>○職員による自己評価において、すべての評価項目で肯定的評価が高く、最低でも91%を示している。</p> <p>○特に、いじめを含めた生徒の行動に関する情報共有と対応について、昨年度からの体制に改善を加えたことで充実したととらえる職員が多くなったととらえている。</p> <p>○生徒の意識も、「目標や決意をもって取り組むこと」「主体性を発揮すること」において、8割の生徒が肯定的にとらえている。現在の落ち着いた学校の様子が表れているとともに、生徒に寄り添う職員の対応が発揮された結果であると考え。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「自分にはよいところがある」と肯定的に答えた生徒の割合が、3割にとどまっている。様々な場面で、生徒の自己有用感・自己肯定感を高めるための、活動や声掛け等のさらなる工夫・改善が必要である。少しずつ復活しているとはいえ、コロナ下で多くの行事等が中止・縮小・変更を余儀なくされている。ダイナミックな活動が難しい中で、個が生きる場面を積極的につくり出していきたい。 ●様々な指導を進める中で、職員の「足並み」をそろえることが大切である。落ち着いた状況であるがゆえに、共通理解の弱さや独断が、ほころびのもととなる可能性がある。それを心に留め、職員一丸となって指導を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針が生徒会活動に見え、しかも生徒自らが考え生み出し、自分たちの力で働いているといった印象を強くもちました。コロナ対策での専門委員の仕事、「北中版SDGs」の取組等、生徒の主体性が実際の動く姿に見えるようで、大変頼もしく感じました。特に「SDGs」をもとに、生徒会専門委員会が役割をもち、それぞれの活動を具体化し、目標の達成に近づこうと組織的に動いていることを大いに評価します。 ・健康な身体づくりを自ら考え行動できる人間となるため、現在のコロナ対応は負の面ばかりでなく、長い人生にとってプラスになる点も多いと思います。個々の実態は分かりませんが、自己管理能力の高い大人になれるよう取り組んでいただけたらと思います。 	A

<学校関係者評価を受けての学校の改善策>

- ・生徒が主体性をもって活動できる、委員会活動の充実と工夫を進める。
- ・SDGsを軸にした、環境教育の充実と工夫を進める。

重点3 地域との結びつきを創り、評価し、発展させる主体的な生徒を育成する

これまでの3年間で地域と結びつくことはできた。とりわけ2年目の「大杉再生支援」と、3年目の「プロジェクトf」では、学校から地域に向くベクトルが確かなものとなった。今後はその結びつきが更に強いものとなるように、地域との結びつきを自分たちで創り、評価し、さらに発展できるようにする。

具体目標	評価	自己評価と学校説明	改善策	学校関係者評価委員会から	評価
<p>○地域における中学校、中学生の存在の大切さの自覚と、より主体的に地域と関わらせる働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合の経緯や経過を再確認する場の設定。 ・地域との結びつきを生徒会活動の大きな柱の一つとした、全校的なうねりとなる活動の充実。 ・近い将来のコミュニティスクール化を意識した、出身地区をこえたボランティア活動への参加の奨励。 	B	<p>○コロナ禍による影響が次第に薄れ、地域ボランティアの機会が徐々に以前の状態に戻ってきた。2学期になって、各地の文化展、清掃でボランティア等の機会をいただいた。また11月には、日吉地区まちづくりによる「中学生と語る会」が天神窯で行われた。どのボランティアにも、出身小学校区を超えての参加があった。5月と11月に行われた5校合同資源回収では、出身地区での回収に多くの生徒が参加した。小学校で積み込みの補助を行った生徒は、どの学校でも積極的な働きを認めていただいた。</p> <p>○自分たちを支えてくれている地域の方に感謝の思いを伝えるために、昨年度の生徒会が行った「学校で育てた花を贈る活動（Project Flower）」に加え、今年度生徒会は、さらに地域への発信をするために「新聞づくり」を行った。こうした体験が、自分たちと地域とのつながりを強くし、より主体的に動く生徒の育成につながると考える。</p>	<p>●地域とつながることは、5つの地区を校区とする本校にとって、今後も重要なことである。一方で、時間的な制約であったり、そもそもコロナ禍での活動の在り方であったりが課題となる。総合的な学習の時間とリンクさせるなど、来年度に向けて工夫・改善を行う。</p>	<p>・資源回収や土岐川ボランティア清掃での働く姿、地域の方々と協力する姿、中学生同士声を掛け合う姿に、清々しい心情をもつ生徒が確実に育っていると感じます。地域にいて登下校時に顔を合わせたとき、自然な笑顔で挨拶してくれる姿を、いつも嬉しく感じています。先生と生徒の信頼関係があったればこそと評価しています。</p> <p>・校区が広がれば地域の理解や密着度が希薄になるのは避けられませんが、校区内外の地誌学習や地域ボランティア活動の実践を通して、地域全体を視野に入れて考えられる人物の育成につなげていっていただきたいと思えます。</p>	A

<学校関係者評価を受けての学校の改善策>

- ・生徒発の地域への情報発信のあり方を、さらに工夫していく。
- ・地域ボランティアへの参加等、校外活動の評価を充実させられるよう、地域との連携をより密にする。
- ・学校運営協議会のスタートに合わせ、地域連携の方法や在り方を、学校運営協議会を通じた組織的な動きにできるよう工夫する。